

きらり

酒田市農業委員会報 No.40



「ジャンボかぼちゃのランタン作り」 ～中平田地区～

特集

魅力ある酒田農業の実現を (2面)

高まる新品種への期待 (3面)

農業者年金で生涯所得の確保を! (4面)

農業委員会活動レポート (5面)

キラリな女性 かがやく女性農業者 (6面)

若手農業者リレーエッセー かぜ

農業一筋 短信 (7面)

進む農業の法人化 ー地域での取り組みー (8面)

27 年秋季号

特集

魅力ある酒田農業の実現を



建議書、要望書を市長に提出

市長に提出 市農業行政に対する 「建議書」「要望書」

九月一七日、農業委員会では、農業現場の声を本市の農業政策に反映させるため、市長へ「建議書」「要望書」を提出しました。作成にあたっては、広く農業者、農業関係団体等の意見を集約し、取りまとめました。建議、要望の内容については、次のとおりです。

要望内容(抜粋)

- 認定農業者、後継者育成のための認定農業者経営強化支援事業の継続と予算額の増額。
- 行政と農業者との情報の周知、意見交換等が迅速に行われるよう、環境作りの再構築の検討。
- 少量多品目の農業経営を行う産直出荷者の産地交付金活用
- 経営手腕が問われる中、担い手、青年就農者等が先進的農業を学ぶための海外研修の派遣事業の検討。
- 集積の推進、耕作放棄地の解消のため、受け手に向けた交付金や協力金等の支援策の国・県への要望。

作物、細目書の記入方法の検討。

平成27年度 建議の骨子

1. 農業生産組織の法人化

- 法人設立の課題克服のため、地域で十分検討が行われるよう、先進事例を取り入れて指導する。
- 法人の経営・運営のためのマーケティングや経営経理について、コンサルタントや専任事務員の配置等の支援体制を整える施策を講じる。

2. 儲かる農業を目指した輸出・販路の拡大

- 米の輸出をJAをはじめ全農や大手商社に働きかけ、中長期的展望に立ち取り組む。
- 庄内バイオ研修センターで育苗事業や品種改良を行い、高品質の醸造用米の提供に取り組む。
- 友好都市との人的交流と信頼関係で、酒田の農林水産物のファンになってもらう。また、小中学校の体験農業や交流事業、首都圏の市出身者へのアピールなどの持続性のある対応を講じる。

3. 地域農業の活性化を

- 農業を担う後継者・新規就農者などを育成し、既存事業の条件緩和と支援体制の充実と強化を図る。
- 日本型直接支払制度により耕作放棄地の防止と環境の維持を図るため、地域に適した作物を取り入れる方策を講じる。

4. 土地改良事業

- 作業管理コストの低減と農業経営の安定を図るため、地下水路事業の実施を土地改良区や国、県に協力を働きかける。
- 日本型直接支払制度の事業が活用しやすくなるよう、より一層の事務の軽減を国に働きかける。

5. 地域活性を担う女性の参画と育成

- 元気な地域づくりのために、農業者だけでなく異業種交流、消費者交流、世代間交流の場として、幅広い年齢層の女性組織の活動しやすい環境の整備を図る。
- 若い女性担い手の発掘と女性農業者の育成に取り組むとともに様々な会議等の場に積極的に参画できる環境の整備を図る。



市長との意見交換

山形の次期主力品種となるか！ 山形95号・山形112号

(ポストはえぬき・ひとめぼれをねらう米)

高まる新品種への期待

つや姫の快進撃に続き、第二の矢として山形県では水稻新品種「山形95号」と「山形112号」



秋季現地研修で栽培圃場を視察



左から コシヒカリ、ひとめぼれ、山形95号、はえぬき、つや姫、山形112号



農業総合研究センター水田農業試験場

を有望視し、試験栽培を行っています。いずれの品種も中生の晩で、出穂・成熟期は「つや姫」より早い特性を持ちます。

九月八日、農業委員会は秋季現地研修を行い藤島地内にある農業総合研究センター水田農業試験場と手蔵田地区の栽培圃場巡回を行いました。

山形 95 号

「山形95号」は「つや姫」と同時期に育成され、食味の評価は高かったのですが「つや姫」の販売戦略上、生産販売が後回しにされた感がある品種です。

昨年年度から一般作付が開始され、遊佐地区では開発米の原

料米として、また、尾花沢市では商標登録「雪さらり」として、生産販売が始まっています。その他、いもち病に強く、収量性が高い特性も持っています。

山形 112 号

まだ、優良品種の段階の「山形112号」は、耐倒伏性が高く大粒(千粒重約24g)で、高温耐性に優れ、「はえぬき」より品質と食味が良い品種です。水田農業試験場では、

平成二九年まで栽培法の確立試験の予定で、今後、生産戦略、販売戦略を検討していきます。



山形 95 号

山形 112 号

刈り場の稲姿 9月19日

農業者年金で 生涯所得の確保を!

拒い手積立年金



- あなたの老後生活への備えは十分ですか？
- 年金は家族一人ひとりについて準備することが大切です。
- 老後の備えは国民年金プラス農業者年金が基本です。

農業者年金 へは…

国民年金
第1号
被保険者

国民年金保険料
納付免除者を除く。

年間60日以上
農業に従事

60歳未満

の方ならどなたでも加入できます。



- 農業者年金は、終身年金です。仮に80歳までに亡くなった場合でも死亡一時金として遺族に支給されます。
- 支払った保険料は、全額社会保険料控除の対象となります。
- 農業者年金の保険料は、2万円から6万7千円まで（千円単位で）自由に選択でき、いつでも見直しできます。

登記簿の地目を

現況に合わせてみましょう

農地を転用して農地でなくなった場合、また、山砂採取で農地造成を行い農地になった場合など、土地の現況が変わった時は、不動産登記法によって、登記簿の地目を現況に合わせて変えなければいけません。

登記申請は、土地の名義人がするものです。窓口は、法務局酒田支局になります。

申請を怠った場合は、罰則規程も設けられています。

現況に合った地目を登記することで、違反転用を防止することができます。

皆さまのご理解とご協力をお願いします。

不動産登記法第三十七条

地目又は地積について変更があったときは、表題部所有者又は所有権の登記名義人は、その変更があった日から一月以内に、当該地目又は地積に関する変更の登記を申請しなければならない。

サツマイモの栽培で耕作放棄地の解消を



除草も欠かせない作業です（7月）



豊作を願って定植作業（5月）

農業委員会 活動レポート

一〇月二四日、宮野浦地区の畑でサツマイモ（紅はるか）の収穫を行いました。

耕作放棄地の解消と農地の有効活用を図るため、農業委員会でサツマイモの栽培に取り組んできたものです。五月の定植に続き、七月と九月に除草作業を行い、ようやく実りの秋を迎えました。

収穫したサツマイモは一〇月三一日と一十一月一日に開催の「やまがた庄内農山漁食まつり」で焼き芋などにして提供しました。



サツマイモの収穫（10月）

東北・北海道農業活性化フォーラム

東北・北海道農業活性化フォーラムが八月二七日に青森市で開催され、農業委員一四名が参加しました。

「農業再興に活かす新農業委員活動」と題した大妻女子大学教授、田代洋一氏の基調講演は、農業委員会の新制度に向けた取り組み方について分かりやすい説明で、「地域の人と土地と食を守る」

新たな農業委員会活動が、これまで以上に重要なことになるかと痛感しました。



活発な意見が交わされました

農業委員自主研修報告

営農型太陽光発電設備を見学
八月三十一日から九月一日に、農業委員三名が群馬県で自主研修を行いました。

見学した設備の下では、今後ジャガイモ等の栽培を予定していました。

前橋

市農業委員会

では、

営農型

太陽光

発電設

備の農

地転用

に関し

て、申

請許可の判断基準が具体化され、申請者に分かりやすく示されました。また、きちんと営農されるかどうか重要視されていました。

農業委員会委員選挙人名簿 登載申請書送付の廃止について

農業委員会等に関する法律の改正に伴い、農業委員の公選制が廃止されることになりました。これによって、農業委員会より毎年一月中旬に郵送していた「農業委員会委員選挙人名簿登載申請書」の送付を今年度より廃止することになります。

これまでのご協力に感謝申し上げます。お知らせいたします。



前橋市の営農型太陽光発電設備を見学

キラリな女性

かがやく
女性農業者

農家の思いを届けたくて

中 優子
浜 高橋

私は、夫婦で夫の実家である浜中地区に戻ってきて就農しました。今年で七年目になりますが、その間に出産や育児など自分の環境が大きく変わる中、夫や家族に助けられここまでできました。

出身は同じ庄内なので、言葉や土地勘は困りませんでした。農家の生活に慣れるまでは悩むことも多かった。でも、浜中地区は農家が多いので、地域の方々にご指導いただいたり、女性の農業者グループに参加し情報交換したり、皆さんに支えてもらっています。

農業に携わって思ったことは、それまで自分が食べてきた野菜、果物がこんなに手間や愛情をかけ

て育ち自分の手元に届いていたんだということ。作る方となつた今、育った環境も含め農家の思いも一緒に消費者の方に届いてくれたら嬉しいです。

農業を始めて思ったことがもう一つあります。農業をしていると、言くと、大変だねと言われることです。そんなに疲れた顔をしてたかなと反省します。農業って楽しそうだねって言われるような農業者になりたいです。

私はまだまだ未熟者で、自分のことで精一杯になることも多いのですが、子育てをしながら少しずつでも成長していきたいです。



米の耨り作業中

かぜ

～若手農業者リレーエッセー～



私の家は代々農業を営んでおり、将来的には農業を継ぐことは覚悟していましたが、一度は社会の厳しさを学んでおきたいという考えで、一般企業へ就職しました。

しかし、程無くして父から人手が足りないとの連絡があり、六年前に就農しました。最初はうるさい上司もいない楽な環境で仕事ができるかと期待していましたが、実際に私を待っていたものは、休みが無く、自然との勝負のため失敗の許されない過酷な内容でした。今までの仕事以上に気力・体力共に酷使する仕事内容に、自分の甘い考えを思い知らされまし

10年後を見据えた農業を

弘 五十嵐 飯森山

た。

そんな私でも農業を続けてきて良かったと思える瞬間があります。それは、自分が丹精込めて育てたトマトやキュウリなどの作物をおいしいと食べてもらった時です。最初は小さかった苗が育つにつれて、花が咲き、やがて実を付ける。ここまでには多くの手間がかかります。そんな我が子同然の野菜をおいしいと言ってもらえて嬉しくない訳がありません。その一言でい

くらでも頑張れる気がします。最近では、地域の先輩の誘いもあり青年部や刈取り組合等の組織に所属しています。先輩や同年代の方と接することで様々な話が聞けるので良い刺激になります。

今、自分に設けている課題が『目先のことだけにとらわれず五年後・一〇年後を見据えて行動する』です。一〇年後自分の生きてきた道に恥じることの無い立派な農家になっていることを夢見て、今日も畑を耕します。

農業委員がおじゃましてお聞きしました!

松山地区・大川渡

小巻 繁
なを子 ご夫妻

稲作と畜産を中心に営農されてきた繁さん(六七歳)、なを子さん(六六歳)ご夫妻。

繁さんは、高校卒業後に就農し、親から受け継いだものを守る一心で農業を続けてきました。また、一昨年まで五〇年近く和牛の繁殖を行ってきたこともあり、かつては庄内型有機米の栽培に組織の会長として尽力されています。収量よりも安全安心でないと生き残れないと感じたそうです。

子どもが小さいころは水田全面積の稲をくい掛けし、家に帰ってから牛の世話を。一番大変



(富樫一彦委員)

だったと当時を思い起こします。現在は、水稲、大豆、そばの栽培を繁さんが担当。なをさんは、畑でサツマイモ、大根、キャベツ等を作り、知人にあげるのが喜びと言います。自分のやり方でできる農業は魅力ある職業。稲作だけでなく、他の作物も取り入れた農業を実践してほしいと後輩への助言も。この季節は、最上川流域での秋の味覚「モクズガニ」獲りが趣味の繁さん。一方、大川渡地域の女性が毎月、体操や手芸、会食などを行う「あづばり」が楽しい、なを子さん。小春日和に、お二人の柔らかな笑顔が、お似合いです。

短
信

Rose & Party

農業青年の出会い交流
イベントを開催

9月12日(土)にバラのブーケ作りと、交流パーティーが行われました。

初対面でしたが、同世代の参加者同士の会話も弾み、6組のカップルが誕生しました。

全国農業 新聞



農家の経営とくらしに役立つ情報を
農業者の視点でお届けします

●発行日 毎週金曜日

●購読料 1か月 700円

※お申し込みは農業委員会へ

第3回

農業委員会の 出前相談を開催します

農地の貸借・売買・転用等農地に関することや
農業者年金等についてのご相談はありませんか?
農業委員が出向いてご相談をお受けいたします。

◇日時 12月16日(水)
午後1時30分～3時30分

◇場所 庄内みどり農協 元西荒瀬支店
2階 小会議室

(西荒瀬地区以外の方も参加いただけます)



農業委員がご相談に応じます

農事組合法人「ビーンズ本楯」

代表理事 飯塚 将人



二一年度に大豆刈取りコンバインを二台導入しました。その後、法人化に向けての勉強会や先進地視察等を経て、平成二五年三月に法人「ビーンズ本楯」を設立しました。

○これからの抱負を

現在の経営の柱は水稲と大豆ですが、冬期間の仕事として、酒田市担い手育成総合支援協議会の事業を活用し、啓翁桜の

植栽やふきのとう
(春音)
の栽培等、

新たな園芸作物に
取り組んで
います。
これから
も地域や
関係機関
との連携

を図り、ご指導いただきながら本楯地区の担い手として、地域農業の発展を目指します。



編集後記

今年も無事に、実りの秋を迎えることができました。

一〇月二日に発表された作況指数によると庄内は一〇四(九月一五日現在)のやや良。松山や平田地区の一部からは、強風の被害が報告されていますが、刈取り・調整が進み、実際の収量もまずまずとの声を多く聞きます。

しかし、全国に目を転じてみると、九月一〇・一二日の関東・東北豪雨の惨禍。尊い人命や住む家を失った方々の悲しみは計り知れず、農業被害も三〇〇億円を超す大災害となりました。翌日の農業紙一面の見出しは、「豪雨出来秋襲う」。丹精して育ててきた農作物や家畜を一晚で失うことの切なさ、自然の残酷さを思い知らされました。私が幼いころの祖父の「今年はお上作ださげ、酒田さヨウ(鮭)買いさ行くが」の言葉に、実りへの感謝と喜びが感じられ、今でも思い出されます。

(ことう)

○名前の由来を教えてください
本楯地区農業振興協議会は、平成一〇年に大豆刈取りコンバインを導入。そのオペレーター組織として発足しました。大豆から「ビーンズ本楯」と名付けました。

○経営の内容は

組合員六名 経営面積六〇畝
主な農産物 米、大豆

○設立のきっかけは何ですか

特定農業団体「本楯ファーム」は、法人化を前提として、平成

なんの野菜の花？



ヒント

- ◇ヒガンバナ科の植物で、細長い葉は汁物や餃子の具、おひたしにして食べます。また、韓国料理のキムチやチヂミの具としても使います。
- ◇花茎と若い蕾も食用にします。

答え・ニラ